

1. 研究概要

1.1 検討フロー

近年、建設技術の進歩は目覚しく、各分野において相次いで新工法が開発されているが、その特徴や適用性は一般の建設技術者には分かり難くなってきている。そこで、当小委員会では、体系化が必要と思われる技術を研究テーマとして採り上げ、幅広い建設技術者に役立つ情報や資料を提供していくことを目的として活動してきた。当小委員会の建設技術体系化の流れを図-1.1に示す。

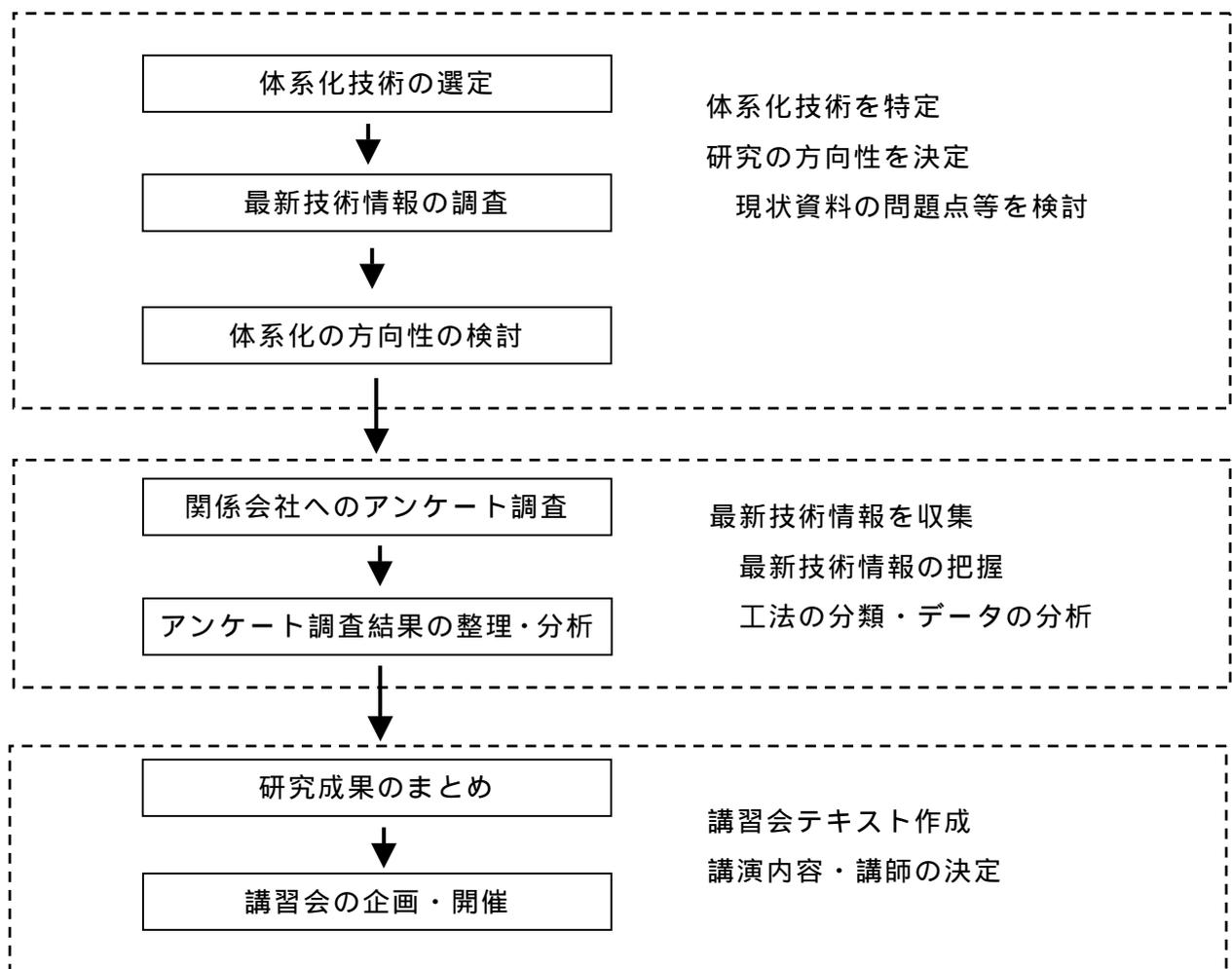


図-1.1 建設技術体系化のための研究の流れ

1.2 体系化する技術の選定

当小委員会においてこれまでに体系化した技術（過去の講習会タイトル）は、以下のとおりである。

【過去の講習会タイトル】

- 第 1 回 コンクリート混和剤
- 第 2 回 小口径の施工と維持管理
- 第 3 回 深層地盤改良工法
- 第 4 回 柱列式・泥水固化式地下連続壁
- 第 5 回 コンクリートひび割れ対策技術
- 第 6 回 最新の杭工法の現状と設計・施工のポイント
- 第 7 回 最新の切土・盛土工法の現状と設計・施工のポイント
- 第 8 回 最新の地盤改良工法の現状と設計・施工のポイント
- 第 9 回 最新の土留め工法の現状と設計・施工のポイント

体系化すべき技術の選定に当たっては、以下の事項を基本方針として検討した結果、「**コンクリート技術**」を体系化すべき技術として選定した。

工法の技術開発が急速に進められ、複雑化している技術であり、多くの建設技者が関心をもっている技術であること。

第 6 回から第 8 回までで土質・基礎関係の体系化が概ね整備されたことから、新しい分野を対象とすること。

1.3 研究対象の選定

当委員会では、コンクリート関連技術の現状を踏まえて体系化する技術（材料、工法）を以下のように選定した。

【体系化の対象とした技術】

- 混和材料（化学混和剤・混和材）
- 表面保護工法
- 鉄筋継手工法
- 養生方法
- 非破壊検査